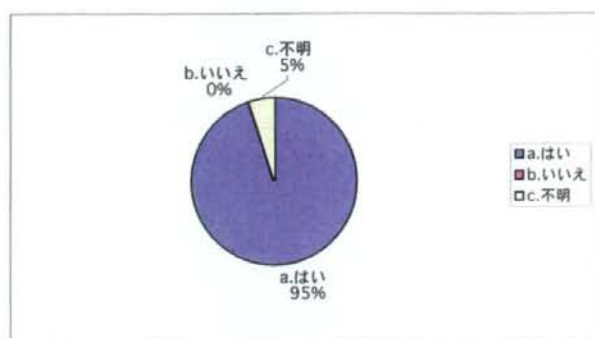
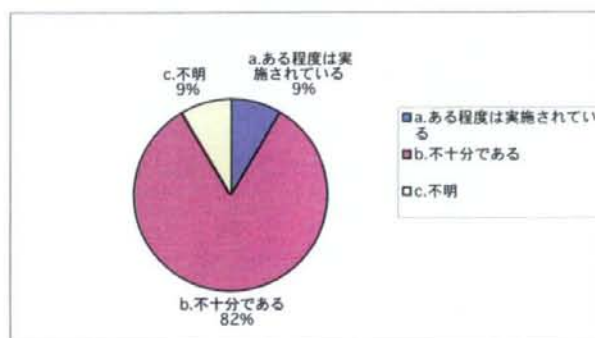


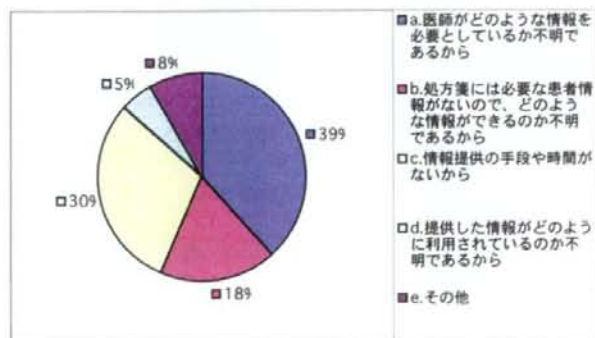
外来患者の薬物治療の実施にあたり、薬剤師から医師への患者情報の提供は、医師にとって有用（有用かもしれない）と思いますか？



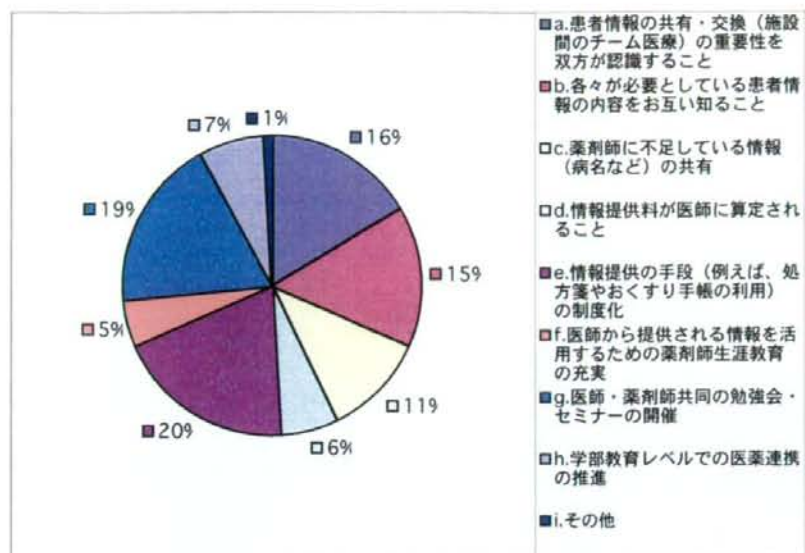
外来患者の薬物治療の実施にあたり、薬剤師から医師への患者情報の提供は、医師の必要性からすると



薬剤師から医師への患者情報の提供が b. 不十分である とお答え頂いた先生へおたずねします。何が原因と考えますか？（複数回答可）



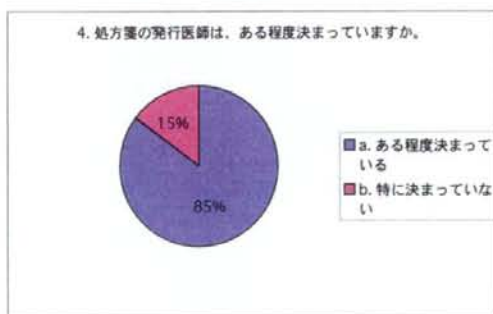
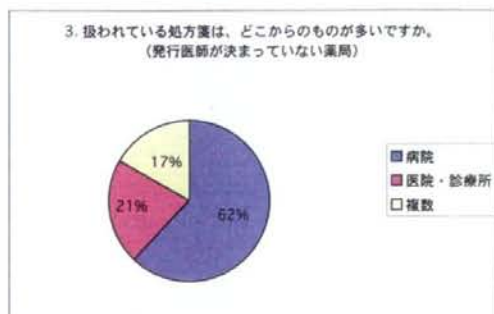
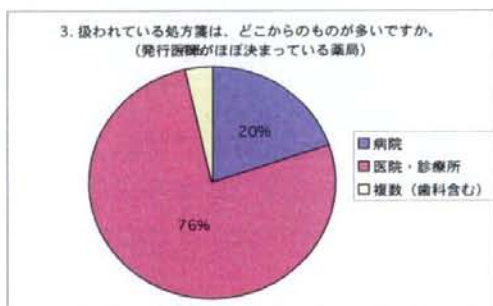
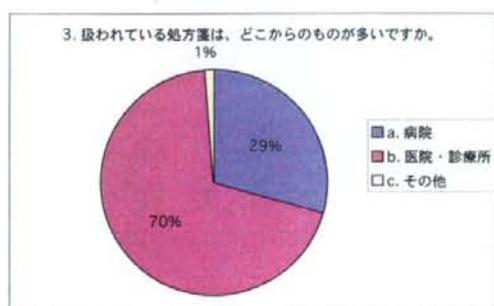
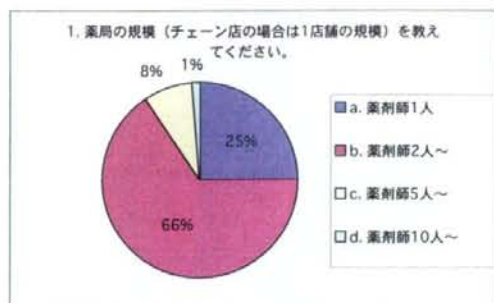
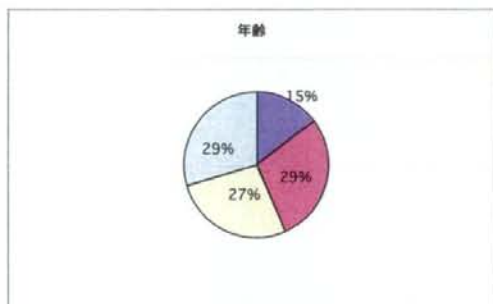
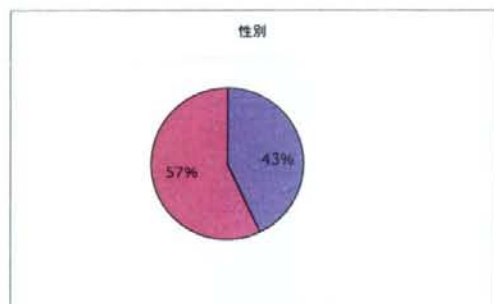
医師と薬剤師の間の患者情報の交換を促進するためには？（3つ選んで下さい）



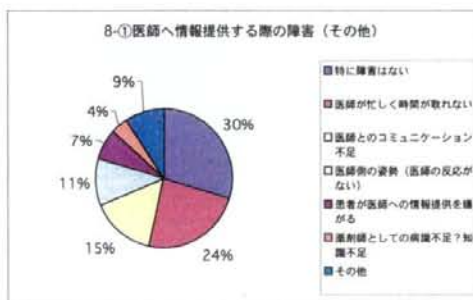
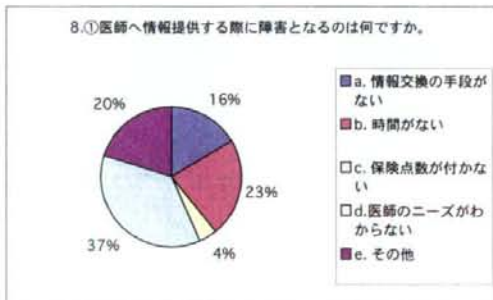
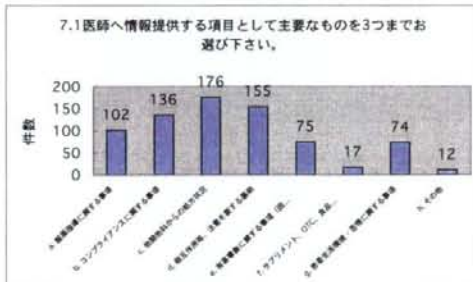
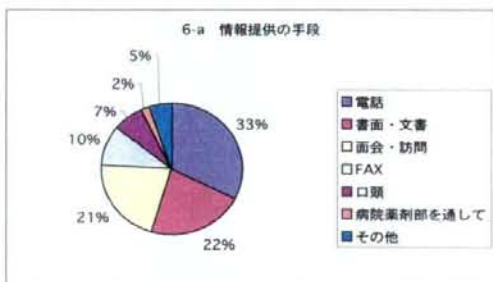
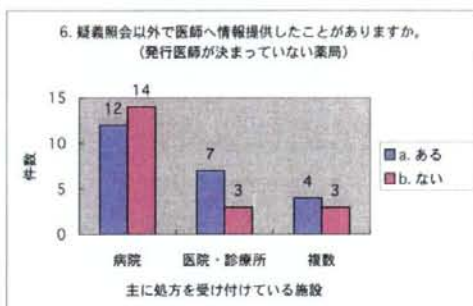
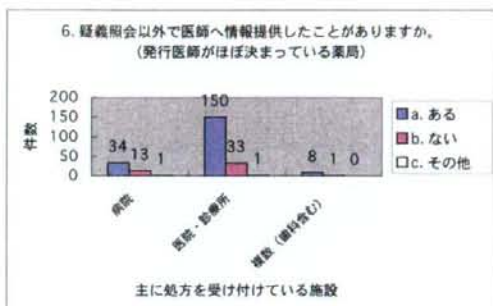
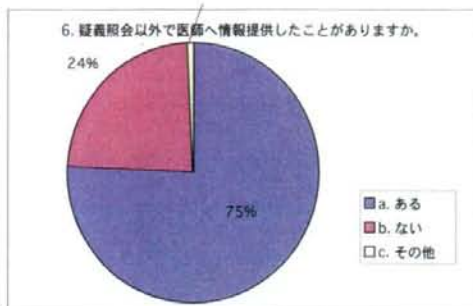
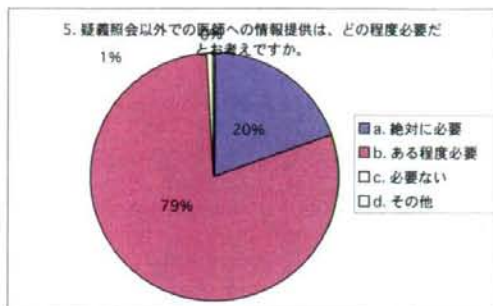
薬剤師から医師に一言

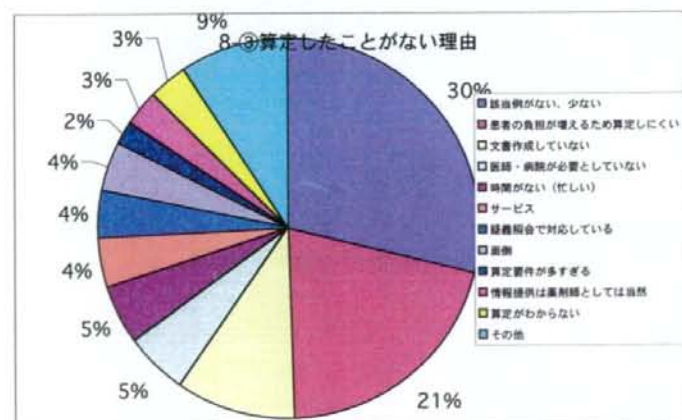
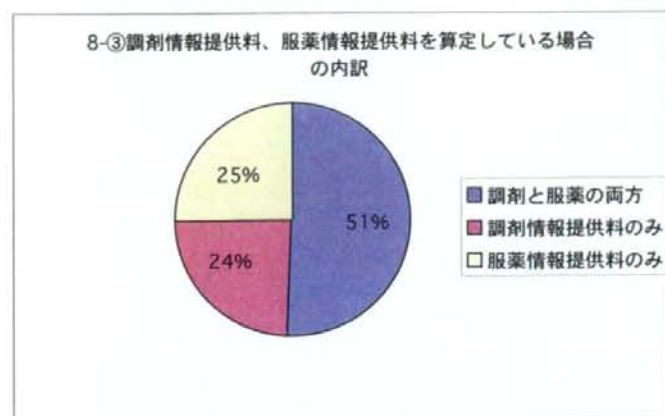
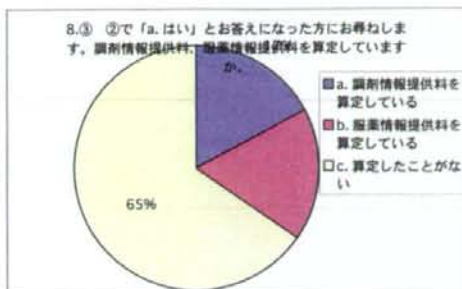
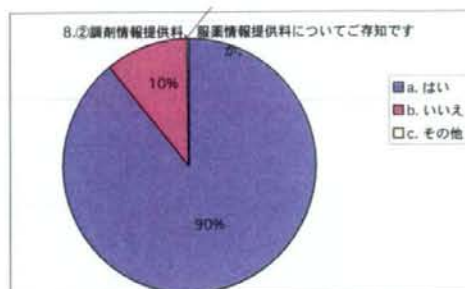
- ・ おくすり手帳を毎回見てほしい
- ・ 病名等の情報共有は不可欠だと思います。
- ・ 患者背景なども情報提供としてした方がよい
- ・ 制度化されることで情報交換できたらと思う。

資料 20



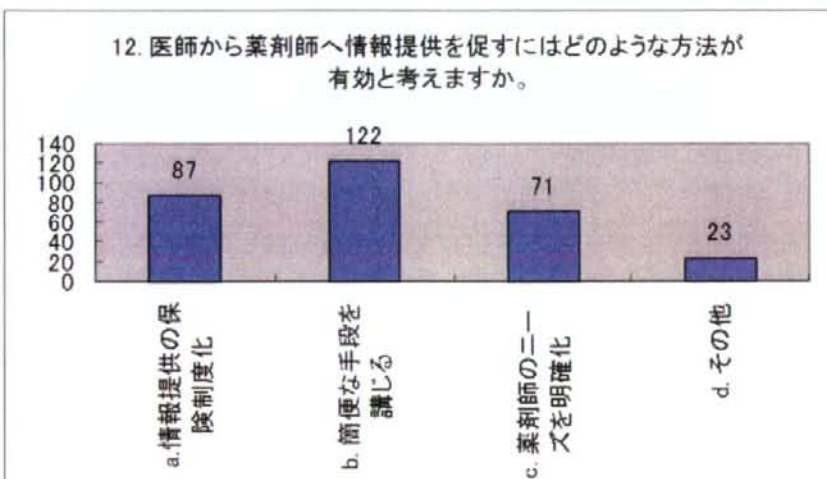
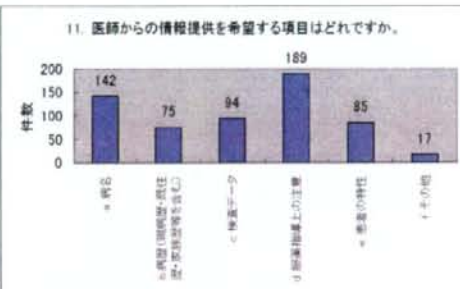
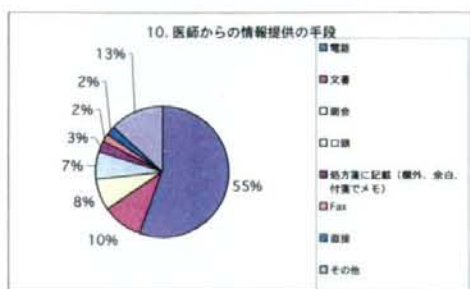
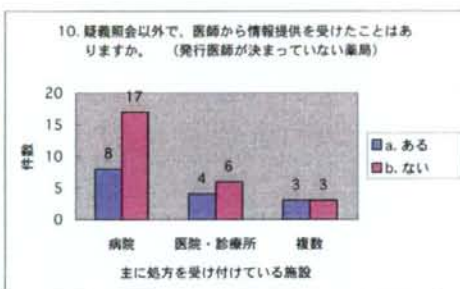
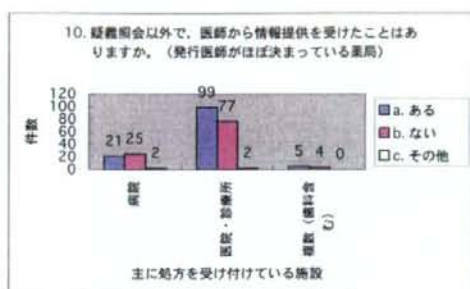
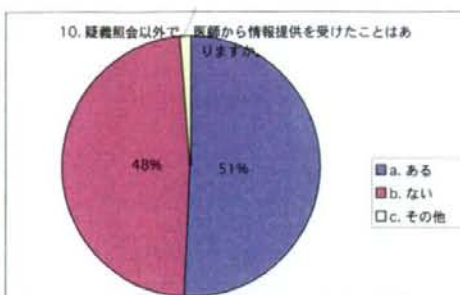
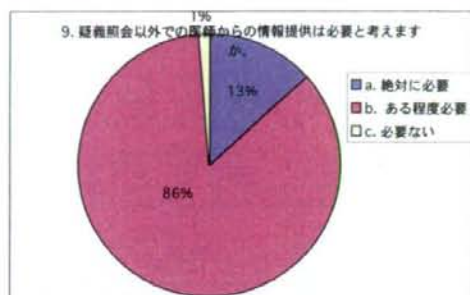
# I. 院外の薬剤師から医師への情報提供について



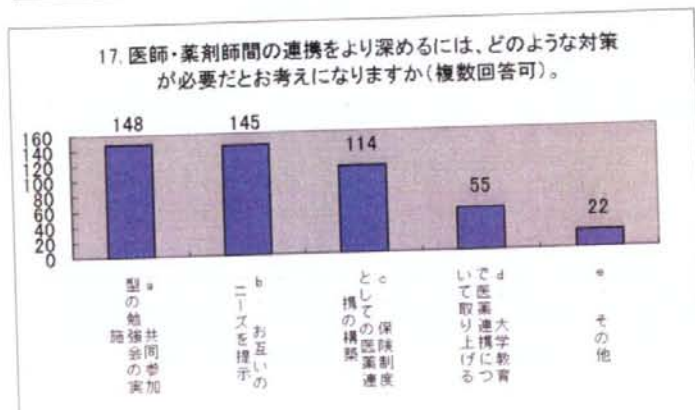
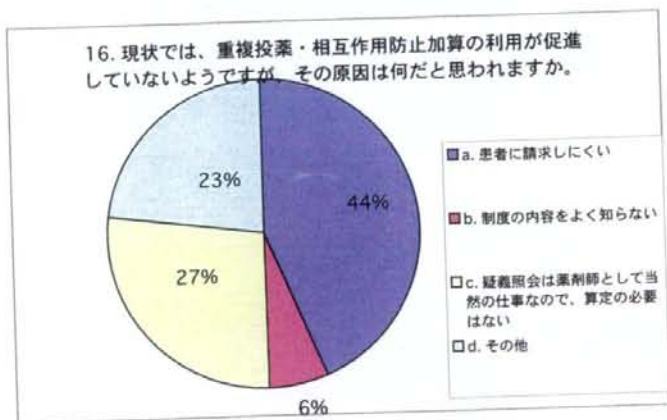
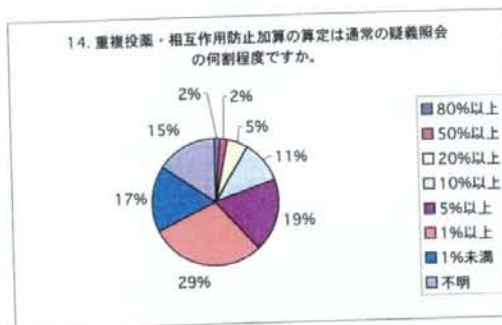
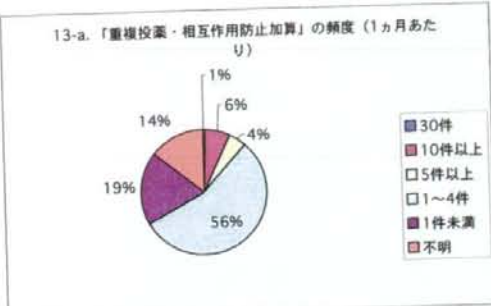
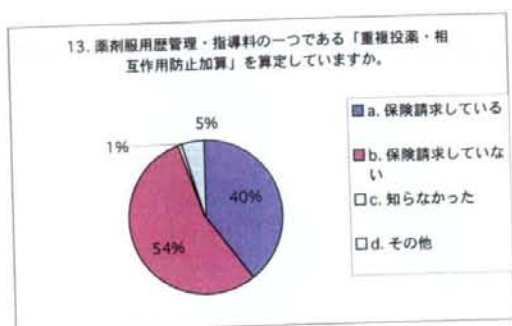




## II. 医師から院外の薬剤師への情報提供について

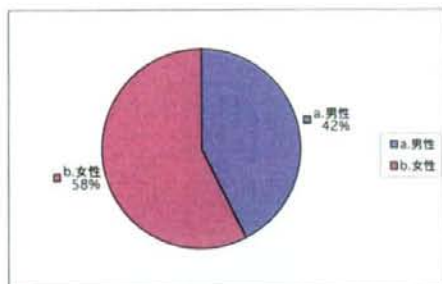


### III. 疑義照会について

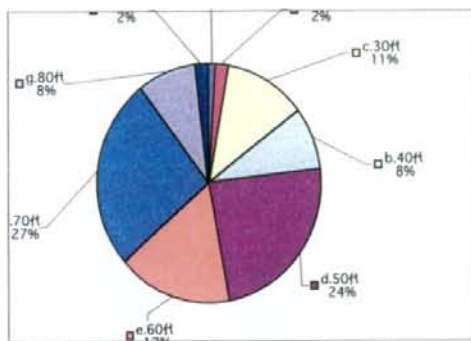


## 資料 2 1

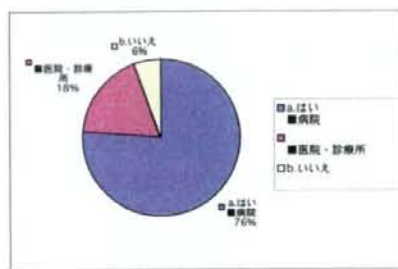
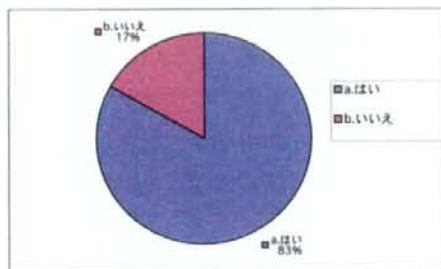
性別



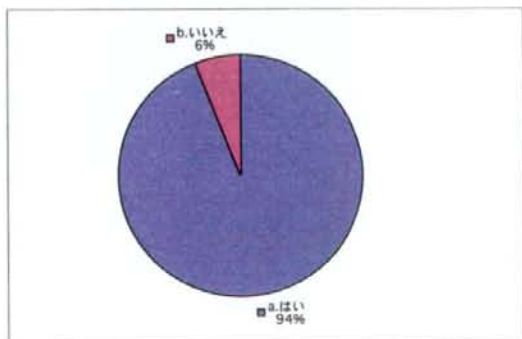
年齢



定期的に診療を受けていますか？ かかりつけの医療機関はほぼ決まっていますか？



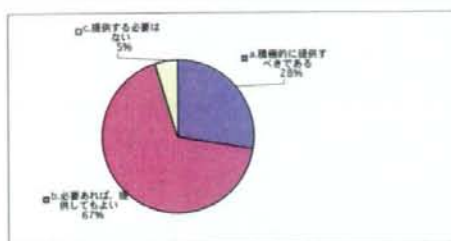
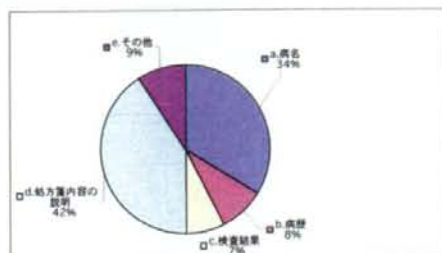
おくすりを受け取る薬局はほぼ決まっていますか？



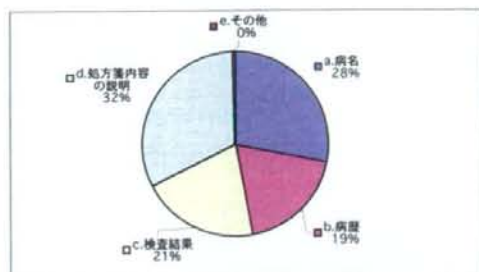


医師から薬剤師へ

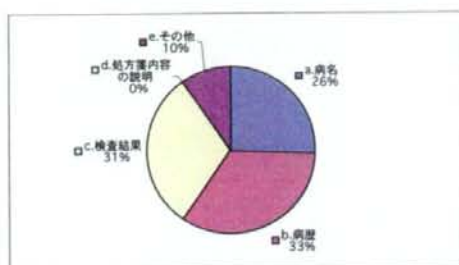
どのような情報が提供されていると思いますか？ 情報を提供することは



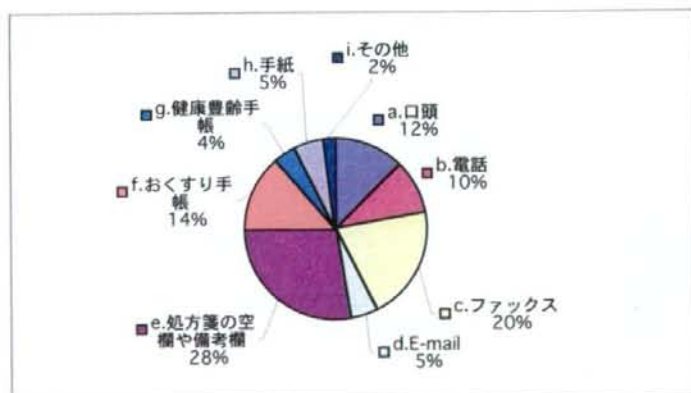
提供してもよい情報はどれですか？



提供してほしくない情報はどれですか？

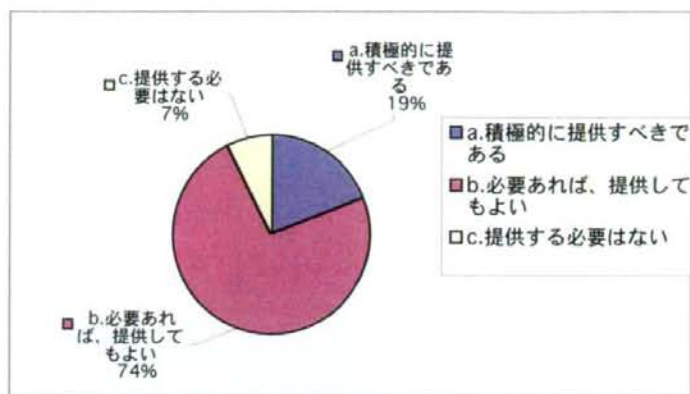


情報提供の手段として適当と思われるものは？

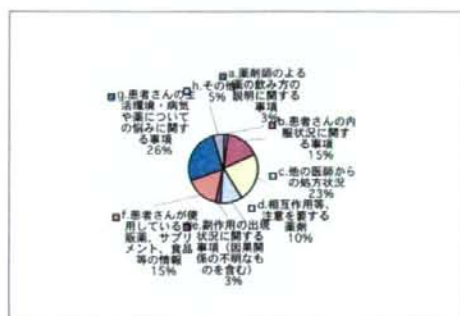


## 薬剤師から医師へ

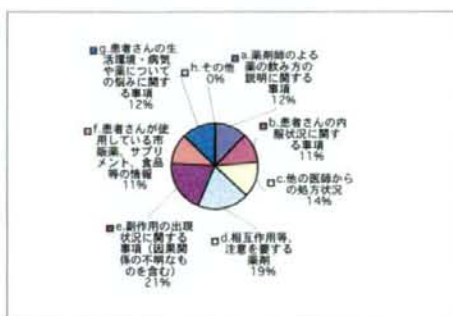
情報を提供することは？



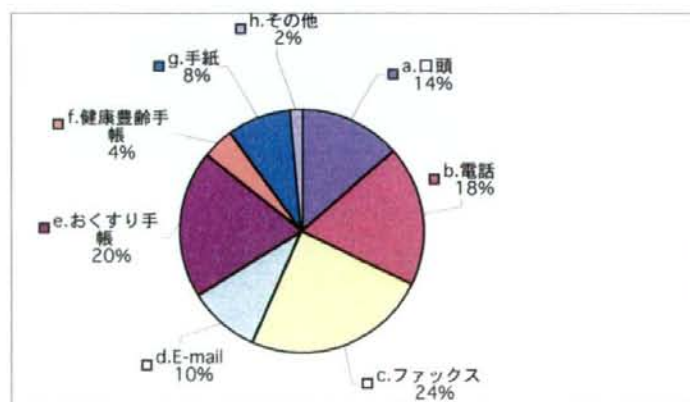
提供してもよい情報はどれですか？



提供してほしくない情報はどれですか？



情報提供の手段として適当と思われるものは？



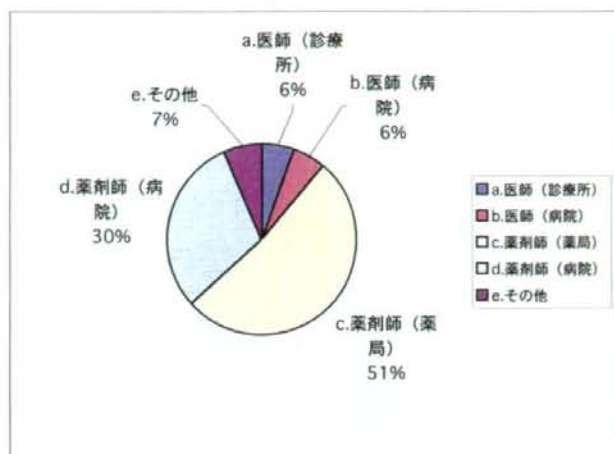
## 資料 2 2

## 確認事項報告書のまとめ

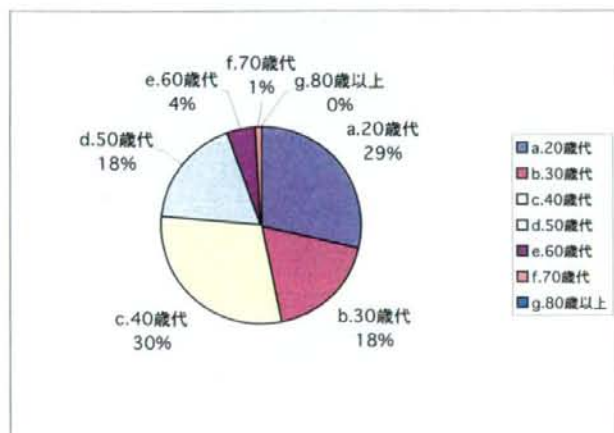
確認事項	呼吸器科		循環器		計
	医師→薬剤師	薬剤師→医師	医師→薬剤師	薬剤師→医師	
服薬指導に関する事項	19	5	0	5	29
コンプライアンスに関する事項	18	2	0	2	22
他科・他院受診状況	3	1	0	3	7
注意を要する薬剤	1	1	0	0	2
副作用・有害事象に関する事項	1	0	0	2	3
生活環境・苦情に関する事項	0	0	0	3	3
その他	0	0	0	12	12
計	42	9	0	27	78

## 資料 2 3

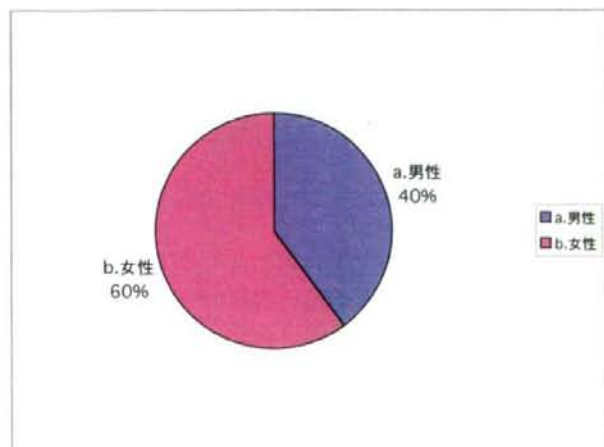
### 1. 職種



### 2. 年齢

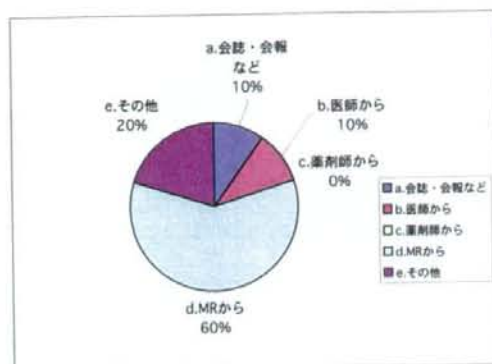


### 3. 性別

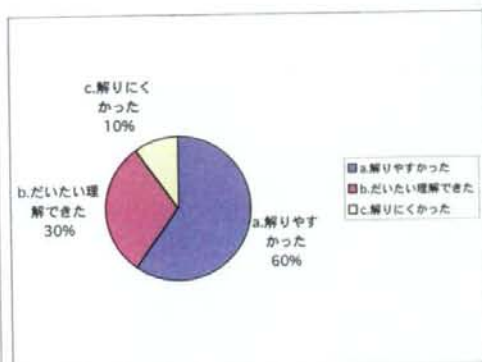


【医師】

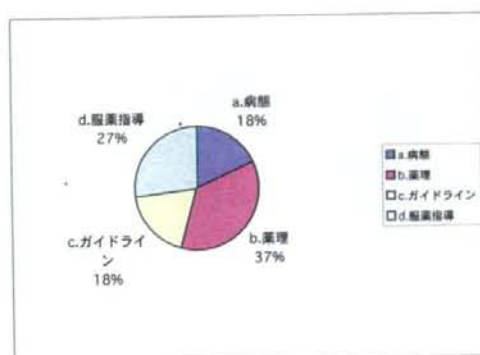
4. どのようにしてセミナーをお知りになりましたか？



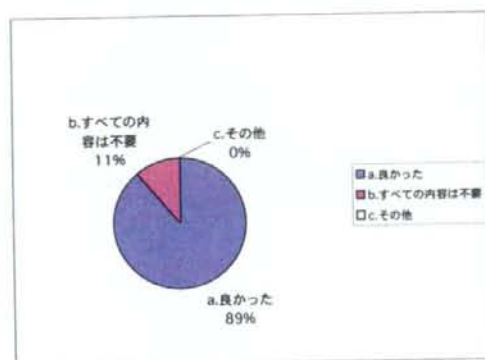
5. 講演全般について



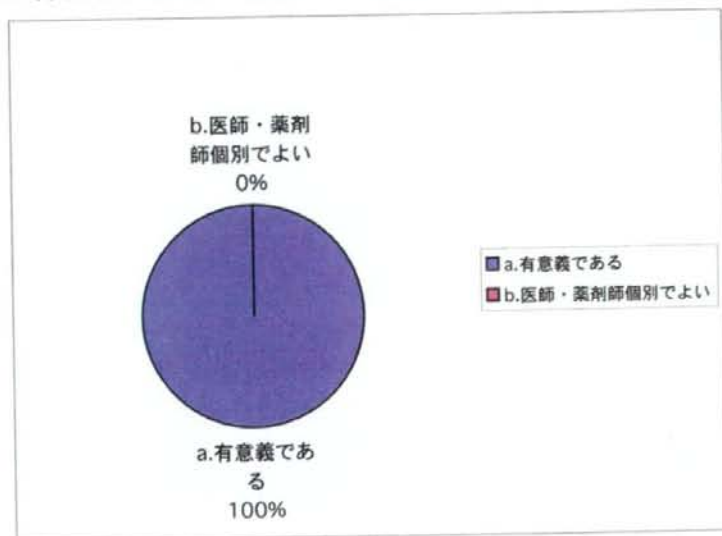
6. 特に興味を持った、あるいは意義だった講演は？



7. 今回の様に、病態から服薬指導まで薬物治有意連に関する一連の内容を含む講演形式は？



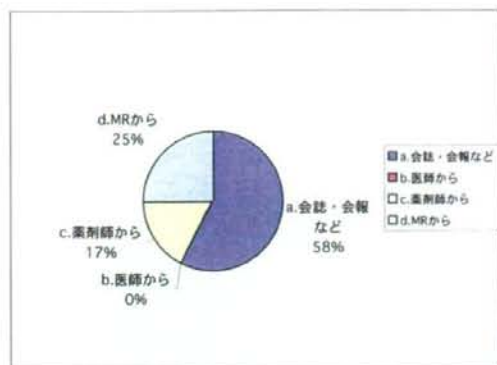
8. 今回のような医師・薬剤師共同の勉強会は？



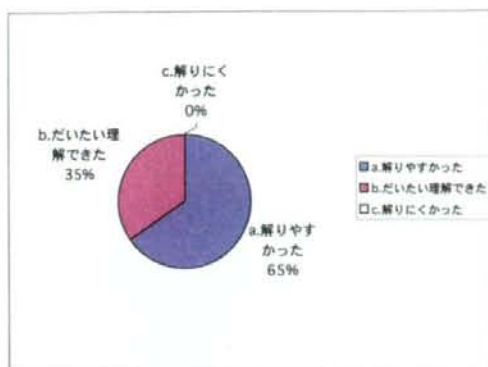


【薬剤師】

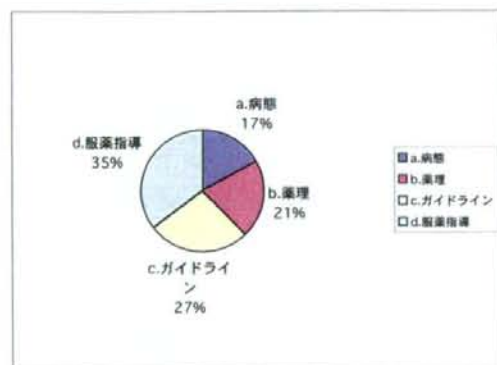
4. どのようにしてセミナーをお知りになりましたか？



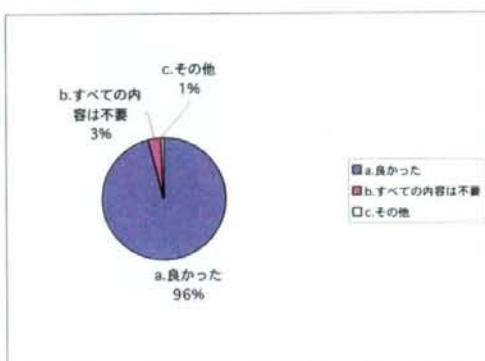
5. 講演全般について



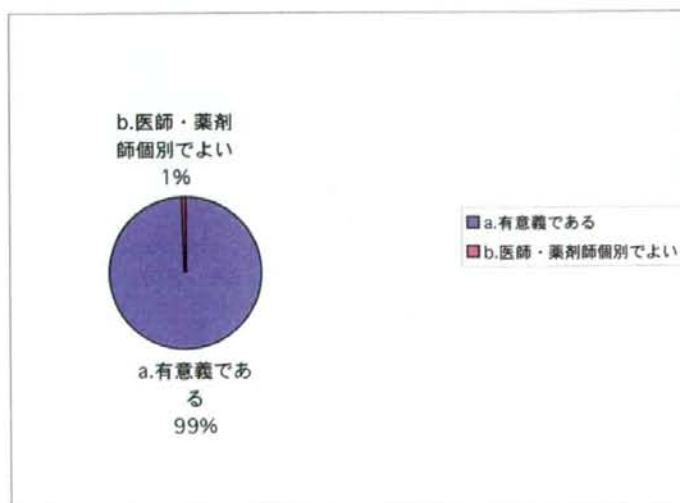
6. 特に興味を持った、あるいは有意義だった講演は？



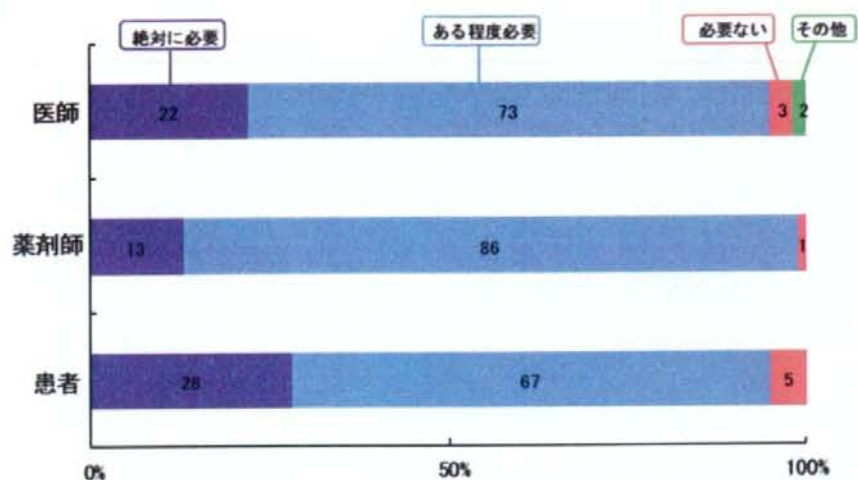
7. 今回の様に、病態から服薬指導まで薬物治療に関する一連の内容を含む講演形式は？



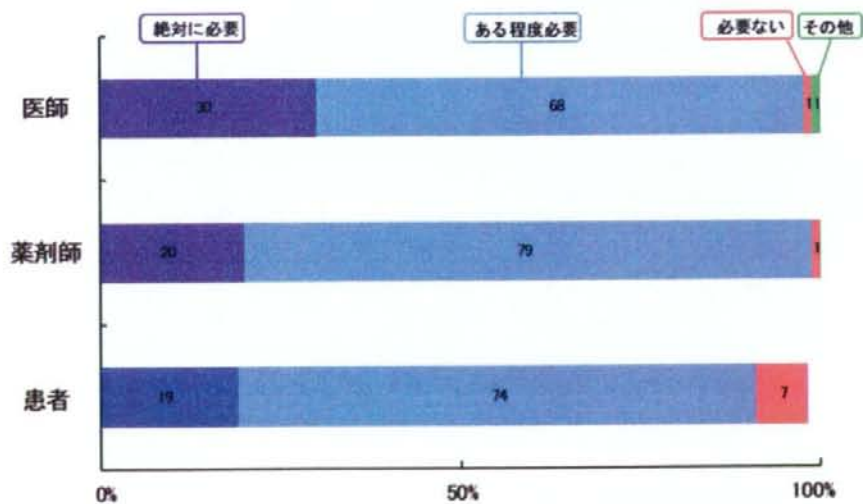
8. 今回のような医師・薬剤師共同の勉強会は？



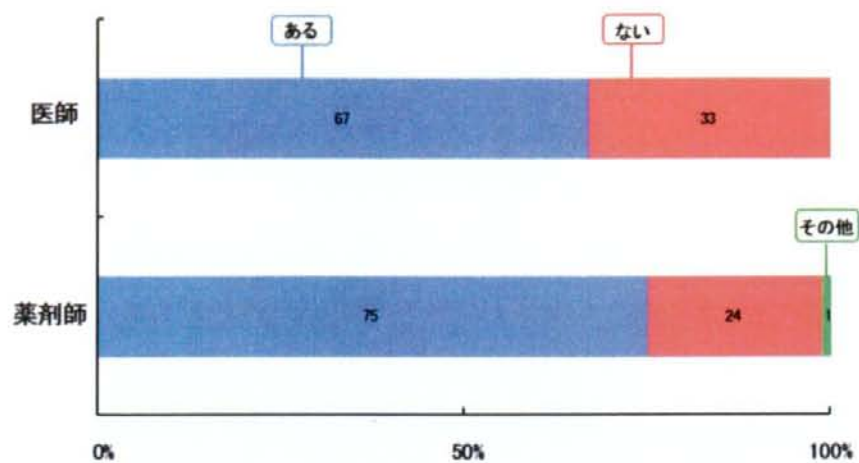
1. 医⇨薬：必要性



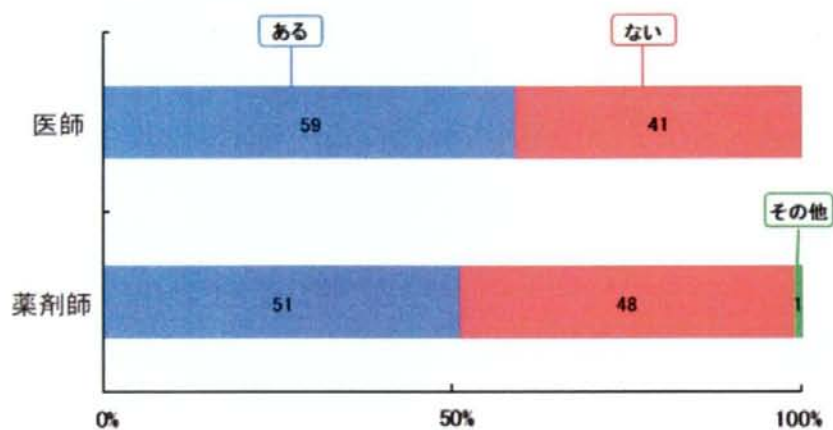
2. 薬⇨医：必要性



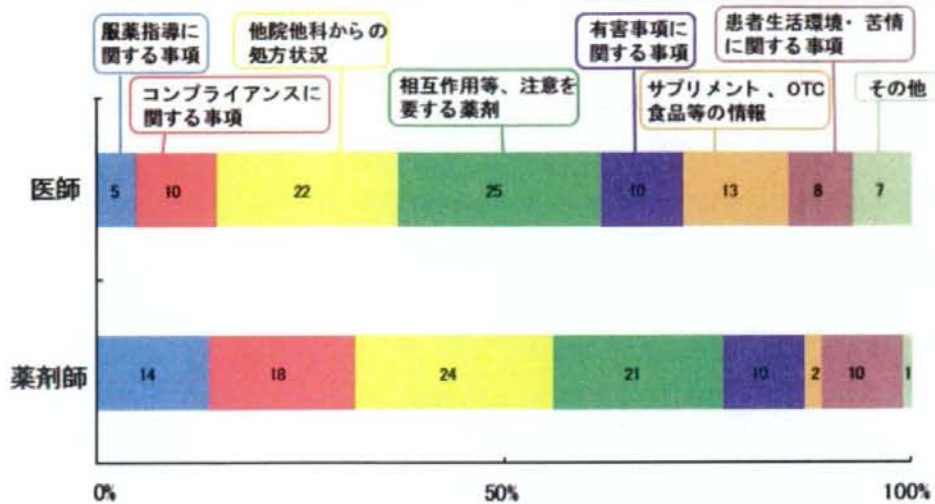
### 3. 薬⇨医: 経験



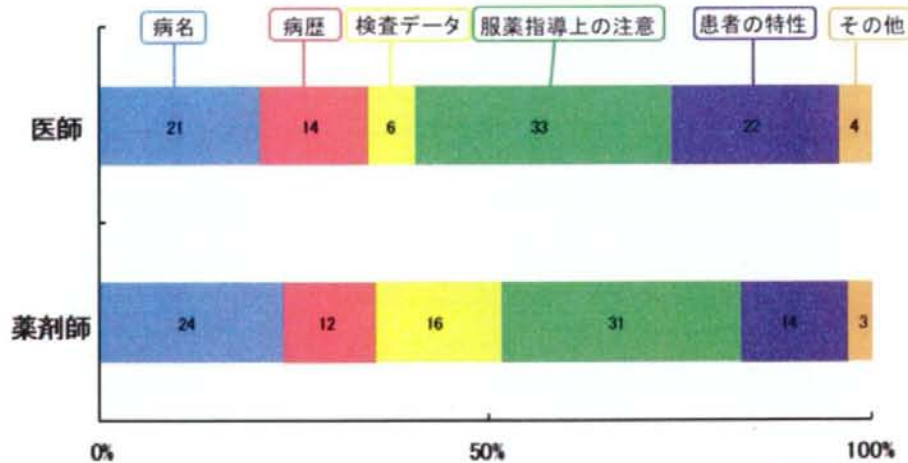
### 4. 医⇨薬: 経験



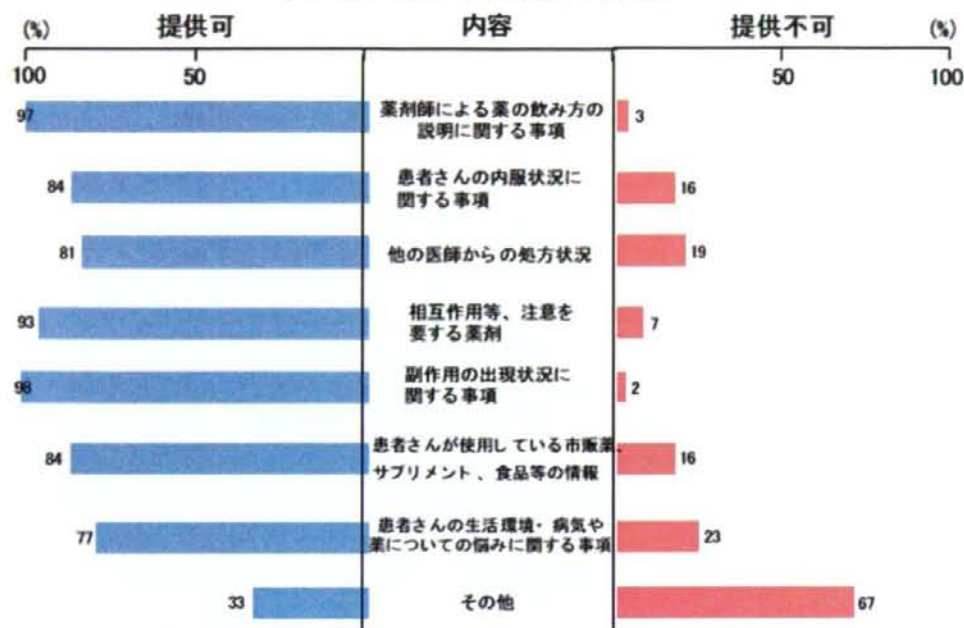
## 5. 薬⇨医: 内容



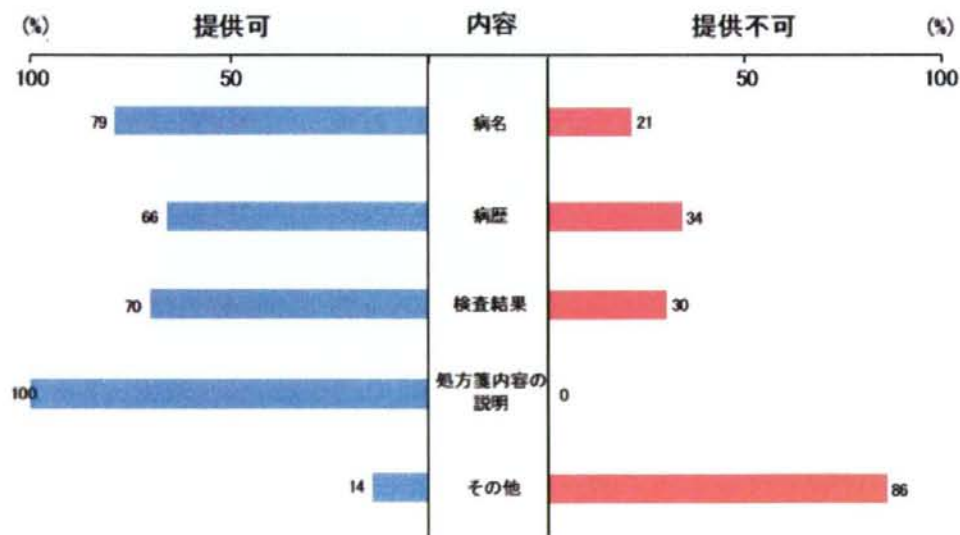
## 6. 医⇨薬: 内容



### 7. 薬⇨医：情報内容（患者）

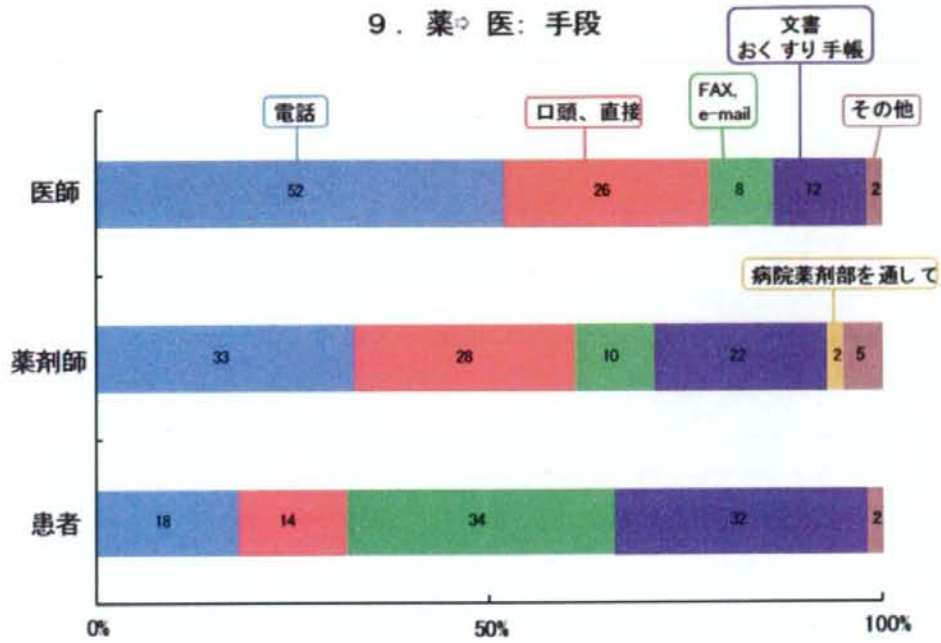


### 8. 医⇨薬：情報内容（患者）

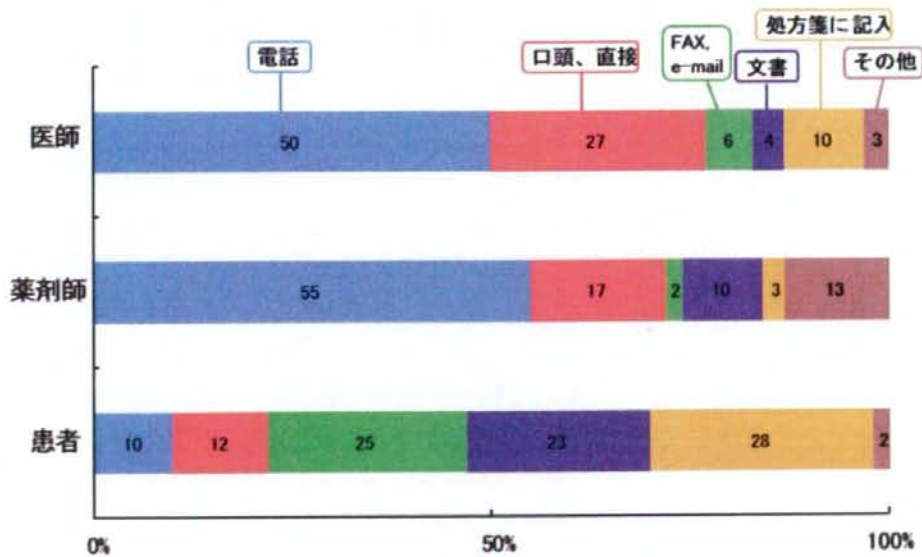




### 9. 薬⇄医: 手段



### 10. 医⇄薬: 手段



厚生労働科学研究費補助金  
(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業)  
分担研究報告書

薬剤師の社会的役割を踏まえた医師との地域医療連携のあり方に関する研究  
研究分担者 水柿 道直 東北薬科大学教授

研究要旨

患者本位の医療を提供するためには、地域における、医師や薬剤師、看護師らによる医療連携が重要である。特に、薬物治療においては、薬局薬剤師の役割、位置付けを明確にし、より効果的な医師－薬剤師の連携＝医薬連携、を推進することが必要である。しかし、現時点では、薬剤師にとっては処方箋が医師からの唯一の情報であり、一方、医師から見れば服薬指導の内容や薬剤師が持つ患者情報を知る由もない。この医師と薬剤師の薬物治療における情報と意識の隔たりは医療の連続性を欠くものであり、何よりも患者にとって不幸なことである。従って、患者により安心、安全な医療を提供するためには、医師と薬剤師の間での患者情報の共有を中心とした積極的な連携体制を確立することが必要かつ急務である。そこで、薬剤師の社会的役割を果たすための医師との地域医療連携のあり方の一つとして、医師との患者情報の共有について検討した。平成20年度は、情報共有の現状と問題点を明らかにするために医師、薬剤師および患者を対象にアンケート調査を実施し、その結果を参考に情報共有の試行、医師・薬剤師共同の勉強会を実施し対策の妥当性について検討した。まず、アンケート調査では、医師、薬剤師とも回答者のほぼ全員が医師・薬剤師の間での情報交換が必要と感じている。しかし、現実には情報交換を経験したことの無い医師、薬剤師が30%前後を占め、情報交換は不充分だと感じている。一方、患者の多くは外来処方では既に病名や検査結果などの診療情報が薬局薬剤師側に伝わっているものと思っている。自分の薬物療法を担当している薬剤師に処方薬の情報しか伝えられていない現状は、患者＝国民からすれば大きな驚きであるに違いない。情報がスムーズに交換されない理由として、①お互いのニーズがわからないこと、②コミュニケーション不足、特に薬剤師が医師への情報提供を遠慮してしまうこと、③情報提供のための手段、時間がないことが指摘された。①については、情報報告書を作成し4つの病院とその近隣薬局に限定して情報交換を試行したところ、医師からは疾患に関連する情報（病名など）や服薬指導上の注意が、薬剤師からは薬に関する情報（服薬状況や他院からの処方薬など）の他に患者に関する情報（生活状況、病気や治療に関する悩み・疑問など）が提供され、アンケート調査の結果と同様に、提供された情報はお互いのニーズに合致しており、各自の業務に有用であったことが確認できた。患者アンケートでも、このような情報の提供には概ね賛成であった。②の対策として、医師・薬剤師共同の勉強会を気管支喘息のテーマで実施したところ、お互いの業務を知ることによってコミュニケーションを図ることができ有用であったことが確認できた。③については、電話などで口頭により情報が伝えられているのが現状である。しかし、患者アンケートでは、文書による報告、例えばおくすり手帳や